

## 手口感覚症候群

の視床という脳深部に脳梗塞が見つかった。

「ちょっと口や手がしびれたくらいで、大騒ぎするのは恥ずかしい」と思うだろうか？

高血圧に糖尿病のTさん、60歳。顔が赤黒いのは、日焼けではない。「血液ドロドロのせいだ」と、顔を見るたびに禁煙を勧めていた。ある日、「左の手のひらと左側の口の周り半分がジンジンとしびれる」と言ってきた。訴えを聞いただけで分かる。脳の病気の「手口感覚症候群」である。

実は、しびれは前日にもあったのだ。いきなり、左の手の指と口周りがしびれた。だが、20分もしたら、もとに戻った。気にはなったが、誰にも言わず、様子を見ることにした。その翌日だ。起床したら、口と手がしびれている。

前日より、少し範囲が広がっているようだ。でも、どうせまた消えていくだろうと高いまをくぐっていた。受診したのは午後である。頭部MRI（磁気共鳴画像）では、右

前日の20分くらいでなくなったしびれは、一過性脳虚血性発作である。脳梗塞の前兆だったのだ。脳の中には細い血管が無数に走っている。高血圧や糖尿病、喫煙などで、その細い血管は傷つき、流れにくくなっていく。血液がドロドロになれば、さらにその流れが悪くなり詰まる。

再開通してくれば症状は一過性で済む。その時点で治療を始めれば、脳梗塞を避けることができたかもしれない。だが、3ヶ月異常経った今も残っているTさんのしびれは、この先も続くだろう。

脳梗塞や脳血管の弊害は、意識がなくなったり、手足が動かなくなるような目立った症状だけではない。「軽いしびれでも、それがいきなり出現したのなら大騒ぎしてほしい」と、何度でも言っておこう。年のせいで、言ったことを忘れたわけではありませぬぞ。

（石黒修三 しいへろクリニック・脳神経

外科専門医・・・北國新聞掲載）